

特に断らなければ $u = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ とする.

- $L := \{u \in \mathbb{R}^2 \mid (x/2)^2 + (y/3)^2 = 1\}$ とおき, L が囲む有界領域を Ω とする.
 - $l: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2, l(t) := \begin{pmatrix} 2 \cos t \\ 3 \sin t \end{pmatrix}$ は L を表す正則なパラメータであることを示せ. 周期を求めよ.
 - 点 $l(t) \in L$ における単位接ベクトル $v(t)$ と単位法ベクトル $n(t)$ を求めよ.
 - Ω を図示せよ. (2) で求めた $n(t)$ は Ω の境界の向きを表すか? 絵を描いて確認せよ.
- $L := \{u \in \mathbb{R}^2 \mid 0 \leq x \leq 1, y = 0 \text{ または } 1\} \cup \{u \in \mathbb{R}^2 \mid x = 0 \text{ または } 1, 0 \leq y \leq 1\}$ とおく.
 - L を図示せよ.
 - L を表すパラメータ $l: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ で, 周期的, 区分的に正則であり, L が囲む有界領域の境界の向きを表すもの一つ求めよ. さらに, その周期を求めよ.
- $\Omega := \{u \in \mathbb{R}^2 \mid 1 \leq |u| \leq 2\}$ とおく.
 - Ω を図示せよ. Ω は有界領域であることを示せ.
 - Ω の境界 $\partial\Omega$ を求めよ. $\partial\Omega$ の向きを表すような正則パラメータの一つ求めよ.
 - Ω の補集合 $\mathbb{R}^2 \setminus \Omega := \{u \in \mathbb{R}^2 \mid u \notin \Omega\}$ (講義では Ω^c と書いた) は有界領域ではないことを示せ.
- 次の曲線 L について, (区分的に) 正則なパラメータ $l: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ を一つ求め, 各 $l(t)$ における単位接ベクトルと単位法ベクトルを求めよ. L が閉曲線の場合は, L が囲む有界領域の境界の向きを表すようにし, 周期も求めよ.
 - $L := \{u \in \mathbb{R}^2 \mid y = f(x)\}$, ただし $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ は C^∞ 級関数
 - $L := \{u \in \mathbb{R}^2 \mid x^{2/3} + y^{2/3} = 1\}$
 - $L := \{u \in \mathbb{R}^2 \mid 3x^2 - 2\sqrt{2}xy + 2y^2 = 4\}$ (参考: 信州大学理学部平成 26 年度入試問題)
- $L := \{(0, y) \in \mathbb{R}^2\}$ とおく.
 - $l: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2, l(t) := \begin{pmatrix} 0 \\ t \end{pmatrix}$ は L を表す正則パラメータであることを示せ.
 - $m: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2, m(t) := \begin{pmatrix} 0 \\ t^3 \end{pmatrix}$ も L を表すパラメータであることを示せ. m が正則でない理由を述べよ.
- $l(t) := \begin{pmatrix} t - \cos t \\ 1 - \sin t \end{pmatrix}$ で表される曲線 L をサイクロイド (cycloid) という. L を図示せよ. パラメータ l は正則か?
- $0 \leq a \leq 1$ を定数とし, $l_a(t) := \begin{pmatrix} \cos t \\ \sin t \end{pmatrix} + a \begin{pmatrix} \cos 3t \\ \sin 3t \end{pmatrix}$ で定まる曲線を考える.
 - $0 \leq a < \frac{1}{3}$ のとき, l_a は滑らかな閉曲線を表すことを示せ. その周期を求めよ.
 - $a = \frac{1}{3}$ のとき, $\frac{dl_a}{dt}(t) = \mathbf{0}$ となる t を求めよ. $\frac{1}{3} < a$ のとき, l_a は滑らかな曲線を表すか?
- 曲線 L の正則パラメータ l, m について, この二つが同じ向きを表すとき, $l \approx m$ と書くことにする. \approx は同値関係であることを示せ. すなわち, 以下のことを示せ:
 - $l \approx l$
 - $l \approx m$ ならば $m \approx l$
 - $l \approx m$ かつ $m \approx n$ ならば $l \approx n$
- $S^1 := \{u \in \mathbb{R}^2 \mid |u| = 1\}$ とする. 閉曲線 $l: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ は, 連続写像 $S^1 \rightarrow \mathbb{R}^2$ とみなせることを示せ. (ヒント: l の周期を T とするとき, $m: S^1 \rightarrow \mathbb{R}^2$ を $m \begin{pmatrix} \cos \theta \\ \sin \theta \end{pmatrix} := l(T\theta/2\pi)$ で定め, well-defined であることを確かめる)
- $\Omega \subset \mathbb{R}^2$ を, 滑らかな閉曲線 L_1, \dots, L_k で囲まれた有界領域とする. 境界 $\partial\Omega = L_1 \cup \dots \cup L_k$ の向きは, 法ベクトルが Ω の内側から外側に向かうような向きとする, と約束した. とここで, そもそも「内側から外側に向かう」とは (直感的には明らかだろうが) 厳密にはどのように定義したらよいか?

(提出の必要はありません)

訂正．演習の時間に問題 2 を解説しましたが，答に誤りがありましたので訂正します．周期 4 のパラメータ $l: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ として，例えば

$$l(t) := \begin{cases} (t - 4n, 0) & 4n \leq t \leq 4n + 1 \\ (1, t - 4n - 1) & 4n + 1 \leq t \leq 4n + 2 \\ (-t + 4n + 3, 1) & 4n + 2 \leq t \leq 4n + 3 \\ (0, -t + 4n + 4) & 4n + 3 \leq t \leq 4n + 4 \end{cases}$$

を取ることができます．ただし $n \in \mathbb{Z}$ です．

補足： $\frac{dl}{dt}(t)$ を接ベクトルと呼ぶことについて

講義で話す時間がないので，ここで補足しておきます．以下は実質的に演習 3 (4/22) 問 6 の解答でもあります．

正則パラメータ $l: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ で表される曲線 $L = l(\mathbb{R})$ を考えます．

定義． $l(a) \in L$ における L の接線とは

$$l(a) \text{ を通り } \frac{dl}{dt}(a) \text{ に平行な直線} \quad (*)$$

のこと．

一方，今までは「接線」と言えば

$$y = f(x) \text{ のグラフの接線の式は } y = f'(a)(x - a) + f(a) \text{ である} \quad (**)$$

という形で出てきていたと思います．(*) と (**) は，次に見るように同一のものです．

(1) まず， l が一変数 C^∞ 級関数 $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ を用いて

$$l(t) := \begin{pmatrix} t \\ f(t) \end{pmatrix}$$

で表される場合を考えます．このときの L は f のグラフです．この l は L の正則パラメータです：

$$\frac{dl}{dt}(t) = \begin{pmatrix} 1 \\ f'(t) \end{pmatrix} \neq \mathbf{0}.$$

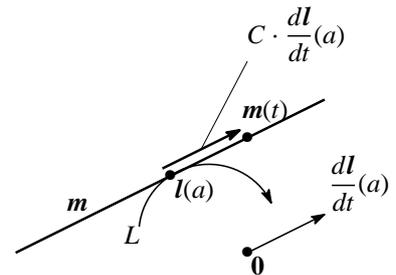
(*) をみたく直線は

$$m: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2, \quad m(t) := l(a) + (t - a) \frac{dl}{dt}(a)$$

で表せます (右図で $C = t - a$ とおいた)．成分を計算してみると

$$m(t) = \begin{pmatrix} a \\ f(a) \end{pmatrix} + (t - a) \begin{pmatrix} 1 \\ f'(a) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} t \\ f'(a)(t - a) + f(a) \end{pmatrix}$$

ですから， m は直線 $y = f'(a)(x - a) + f(a)$ を表します．これは (**) と一致します．



少なくともこの l の場合，(*) は今までよく知っていた「接線」(**) に一致し，従って $\frac{dl}{dt}(t)$ は「接線」に平行であることになるので， $\frac{dl}{dt}(t)$ を「接ベクトル」と呼ぶことにするのは自然だと思えることでしょう．

(2) 一般の正則パラメータ $l = \begin{pmatrix} l_1 \\ l_2 \end{pmatrix}$ で表される曲線 L の場合，正則性から $l_1'(a) \neq 0$ または $l_2'(a) \neq 0$ の少なくとも一方が成り立ちます．例えば $l_2'(a) \neq 0$ の場合，逆関数定理により， $l_2(a)$ の近くだけで定義される l_2 の逆関数 h が存在します． h は逆関数ですから $l_2(h(s)) = s$ をみたくします． $\tilde{l} := l \circ h$ も ($l(a)$ 付近では) L を表します． $g := l_1 \circ h$ とおくと

$$\tilde{l}(s) = l(h(s)) = \begin{pmatrix} l_1(h(s)) \\ l_2(h(s)) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} g(s) \\ s \end{pmatrix}$$

ですから， L は $l(a)$ の近くでは，ある関数 $x = g(y)$ のグラフであることがわかります．(1) と同様に， $\frac{d\tilde{l}}{ds}(s)$ は (**) の意味の「接線」に平行であることがわかります．また， $\frac{d\tilde{l}}{ds}(s)$ と $\frac{dl}{dt}(h(s))$ が平行なのは講義で見た通りです．

なお，接線の式 (**) を $y = f(a) + f'(a)(x - a)$ と書けば，これは f の Taylor 級数の 1 次の項までを取ったものであることに気づきます．Taylor 級数は f を多項式で近似するものですが，1 次式による近似を接線と呼ぶわけです．

幾何入門レポート問題 5 (2016 年 5 月 13 日)

担当：境 圭一

曲線 $L := \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid |x| + |y| = 1\}$ を図示せよ． L を表すパラメータ $l: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ で，周期的，区分的に正則であり， L が囲む有界領域の境界の向きを表すものを一つ求めよ．さらに，その周期を求めよ．

(5/20 の 3 限開始時まで提出してください)

http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/16_geometry/16_geometry.html